

JTU-HYOGO
兵庫高等学校教職員組合
日本教職員組合(日教組)

兵高教新聞

裏面紹介

- ◇ 県立高等学校教育改革第3次実施計画
- ◇ 高校生平和大使ウクライナ支援募金活動 他

神戸市中央区中山手通 4-10-5 神戸市教育会館内 TEL078-261-0829 FAX078-261-1094 E-mail:hyokokyo@pearl.ocn.ne.jp 発行人：西村恭介 編集人：兵高教書記局

日教組第111回臨時大会開催

=誰もが安心して働き続けられる職場づくりと、子どもたちの豊かな学びの保障のためのとりくみを進めよう！=

3月23日(水)、日本教育会館において日教組第111回臨時大会を開催し、兵高教からは西村執行委員長が大会代議員として出席しました。2021年度後半の一般経過報告が行われ、当面のとりくみについて議論しました。

大会の冒頭、「ロシアのウクライナ侵攻に抗議し、即時撤退を求める緊急アピール」(左記)が提案され、満場の拍手で承認されました。清水秀行執行委員長はあいさつの中で、最初にウクライナ情勢に触れ「市民、特に幼い子どもたちの犠牲に深い悲しみと言いたい。怒りがこみ上げてくる。プーチン大統領が行った核保有を誇示する姿勢や核兵器の使用を示唆する発言は、唯一の戦争被爆国として強い憤りを覚える。核兵器禁止条約が昨年1月に発効した中、核の使用や威嚇は断じて許されるものではない。また、ウクライナの人びとの苦しみに乗じて、『核シェアリング』に言及する安倍元首相らの発言は、これまでの被爆者の努力

や思いをも踏みにじるものであり、日本国内のこうした主張に対しても、私たちは反対を訴えていかねばならない。今こそ、『核と人類は共存できない』ということを確認し、非核三原則を堅持することが重要。ウクライナの人々、そしてロシア国内で勇敢にも自国の政府に反対の意思を表明している人々に敬意を表したい。私たちは、平和教育の実践とその重要性を改めて発信していくとともに、世界の恒久平和と核兵器の廃絶を訴えてきた運動を広めていこう」と訴えました。また先日発災した福島県沖地震の被災に対するお見舞いの言葉を述べるとともに、依然収束が見通せない新型コロナウイルス感染症の影響に対し「子どもたちの教育と医

療現場を守り、私たちの命と生活を守るために、感染症の収束まで、保護者の皆様、地域の方々、そして教職員・医療従事者がともに手を携えてとりくんでいこう」と呼びかけました。その後、芳野友子連合会長、川本淳公務労協議長、那谷屋正義日政連会長より、それぞれ連帯と激励のあいさつをうけました。

討論では、感染症蔓延の影響が長引く中で、学校現場の諸課題、子どもの貧困・格差拡大の問題、部活動をめぐる課題、給特法改正後も改善されない長時間労働の実態等が報告され、課題を共有するとともに、今後のとりくみについて議論されました。執行部提出の議案はすべて賛成多数で可決され、当面の運動方針等が確認されました。また、本臨時大会では2022・23年度の日教組本部役員選挙も実施され、新たな執行部体制が確立しました。

最後に「すべての教職員の組合加入をすすめる、民主的な職場の実現をめざす特別決議」および「学校の働き方改革推進をはじめ政策制度の実現にむけた特別決議」の2本の特別決議が提案され、満場の拍手で承認されました。

ロシアのウクライナ侵攻に抗議し即時撤退を求める緊急アピール

2月24日、ロシアはウクライナに軍事侵攻をはじめました。戦禍はウクライナ全土に広がり、地下シェルターや地下鉄構内に市民が避難しています。住居、病院、学校や幼稚園までもが砲火にさらされ、子どもを含む多くの市民が犠牲になっています。子どもや女性などのウクライナ市民が、家族と離れ心身ともに疲弊しながらも、いのちを守るため国外へ脱出しています。私たちは戦争を拡大し、犠牲者を出し続けているロシア・プーチン政権に対し、満身の怒りをもって断固抗議します。

国連憲章第2条4項は、国際関係における武力による威嚇又は武力の行使を禁じています。今回のロシアの行為は明らかにこれに違反するものです。国連総会も緊急

会合を開催し、3月2日に圧倒的多数の賛成により、ロシアに対する非難決議を採択しています。戦争は最大の人権侵害であり、いかなる理由があっても断じて許すことはできません。世界中でロシアの軍事侵攻に対して抗議の声が挙げられ大きなうねりとなっています。さらにロシア国内においても多くの教職員や市民が逮捕される覚悟でデモに参加しています。E I加盟のロシアの教職員組合も声明を出しています。

この間、日本教職員組合はポーランドに避難したウクライナの子どもたちのため国際連帯カンパからE Iを通じて緊急支援を行いました。また、単組とともに打電行動やデモ等に積極的にとりくみ、抗議の意思を示してきました。ウクライナの子どもたちが日常を取り戻し、母国で安心して生活できるよう支援をしていく必要があります。

日本教職員組合は「教え子を再び戦場に送るな」のスローガンのもと、広範な市民と連帯するとともに、ロシアのウクライナ侵攻に抗議し、即時停戦とウクライナからの撤退を求めます。

2022年3月23日
日本教職員組合
第111回臨時大会



書記長提案



委員長あいさつ



兵庫高等学校教職員組合(兵高教)は、《JTU日教組》加盟の組合で、1989年に設立しました。
※「兵庫高教組」「兵高教組」「高教組」(兵庫県高等学校教職員組合)とは、関係ありません。

3/17 兵庫県教育委員会 県立高等学校教育改革第3次実施計画（案）公表

3月17日、兵庫県教育委員会は「県立高等学校教育改革第三次実施計画」を記者発表しました。「ひょうご未来の高校教育あり方検討委員会（2021年3月）」を受け、グローバル化やICTをはじめとする技術の進展等、変化が激しく、予測困難な時代を迎える中で、社会の変化に柔軟に対応し、自らの力で新しい社会を切り拓く力を育成できる県立高等学校であり続けられるよう、改革の基本的な考え方と方向性を示すことを趣旨に、計画の期間を2022年度から2030年度までの9年間としています。

「計画」の3つの柱は、①県立高等学校の魅力・特色づくりの推進、②県立高等学校（全日制）の望ましい規模と配置、③入学者選抜制度・方法の工夫と改善となっています。

計画には、STEAM学科（単位制）を設置（2023年度）、「普通科新学科」への改変、普通科単位制及び総合学科の再編・改編（以上2024年度）、第1学区（第4学区の高校統廃合、定時制から多部制への改変、通信制高校の再編（以上2025年度））などが盛り込まれています。

現在の高等学校教育には様々な課題があり、時代の変化や生徒・保護者のニーズに合わない点が多々あることは事実です。学校の主体は生徒たちであり、高校教育改革は「すべての希望する人に後期中等教育を保障すること」を基本に、これまで公立高校が果たしてきた役割を今後も充実・発展させる方向での改革であるべきです。経済界の要請や一部政治家の思惑、自治体の財政事情で左右されるものであってはなりません。

兵高教は、子どもたちが地域の学校で学べる制度づくり、誰一人取り残されることのないインクルーシブな学校づくりをめざしています。今後も、子どもたち・保護者・地域の人びと・教職員の声を丁寧に取り上げ、組織的に議論を積みあげて、子どもたちや学校の実情をふまえた具体的な提言を行い、県教委と交渉・協議を進めていきます。

「県立高等学校教育改革第三次実施計画」の詳細はこちら→<https://www.hyogo-c.ed.jp/~koko-bo/03kaikaku/dai3ji/dai3jitop.html>

高校生平和大使・ウクライナ支援緊急募金活動

3月27日（日）午後、阪急仁川駅前にて高校生平和大使と小林聖心女子学院・関西学院高等部の生徒有志が、ロシアのウクライナ侵攻に抗議するとともに、戦火で苦しんでいるウクライナの子どもたちや市民を支援するため、緊急募金活動を行いました。

この活動は、高校生たちが「自分たちにも何かできることはないか」と考え、行動に移したものです。

高校生たちの呼びかけに対し、多くの市民のみなさんが耳を傾け、小さなお子さんから同世代の中高生、若いカップルや家族連れ、高齢者の方々など、幅広い世代のご協力が得られ、2時間余りの街頭募金活動の結果、103,776円の浄財が寄せられました。

集まった募金は、日本ユニセフ協会を通じてウクライナ国内の支援活動拡充、近隣諸国での難民支援の展開に活用される予定です。



ノーベル平和賞候補 第25代 2022年 高校生平和大使募集しています

Hiroshima・Nagasaki Peace Messengers
核兵器廃絶と世界平和の実現をめざして
～ヒロシマ・ナガサキの声を世界へ～

高校生平和大使とは
高校生平和大使派遣委員会は1998年、核兵器廃絶と世界平和を国連に訴えていくことを目的とし、若い世代の平和活動育成も兼ねて市民のキャンパで同年代から「高校生平和大使」の国連派遣に取り組み始めました。
自発的な「高校生一人一人署名活動」も間もなく始まり、これまで24年間にわたりのべ300人以上の高校生平和大使が署名などの活動成果を携えて国連を訪問、国連領も「ヒロシマ・ナガサキ・ピース・メッセンジャー」に高い評価と期待感を示しています。派遣は今年で25年目を迎えます。国内外で活動を評価され、ノーベル平和賞の候補にもなっています。
高校生平和大使の活動は今や国際的にも認知され、大きな影響力を与え得るまでに成長しました。「継続は力」といいます。これまでの成果を踏まえ、活動のいっそうの広がりと深まりを求めていきたいと思います。あらたな歴史を切り開き、2022年・第25代の使命を果してくれる高校生平和大使の人材を求めています。

主な役割
① 核兵器廃絶と世界平和を願う広島・長崎・日本国民のメッセージを、国連訪問などを通じて世界に発信する。
② 高校生一人一人署名活動に参加し、集めた署名を国連に届ける。
③ ささまざまな平和活動や学習に積極的に取り組み、その成果を国内外に広める。

今年の国連訪問日程（予定）

2022年	8月20日（土）	集合	福岡泊	8月25日（木）	活動後、帰国の途へ	機内泊
	21日（日）	出発	ジュネーブ泊	26日（金）	帰途	長崎泊
	22日（月）	NGOなどの訪問	ジュネーブ泊	27日（土）	帰国報告会・帰国記者会見（解散）	
	23日（火）	国連欧州本部訪問など	ジュネーブ泊			
	24日（水）	署名活動、交流活動など	泊未定			

※コロナ禍等により、行先や日程は変更になることもあります。

派遣団の構成
今年も総勢30人ほどの国連派遣を予定しています。内訳は下記のとおりです。
高校生平和大使 …………… 全国各地から選出。
費用は派遣委員会の全額負担

応募・選考

- ◎ **応募資格** …………… 2022年8月時点で高校生であること（責任を持って使命を全うする人材を求めます。英語で交流する場合があります。）※各地の選考委員会で異なります。
- ◎ **活動について** …………… 次の「高校生平和大使」が決定するまでとします。ただし、次年度以降も随時、活動に参加していただくこととなります。広島研修・結団式6月（広島）、長崎研修8月（長崎）に参加していただきます。
- ◎ **締め切り** …………… 各地で異なります。
- ◎ **応募先** …………… 氏名、学校名、学年、住所、電話番号（FAX・メールがあればその番号）を明記して必ず郵送で（ハガキ可）下記へ送ってください。

高校生平和大使募集係 〒850-0057 長崎市大黒町4-16 平和活動支援センター一気付

◎ **選考** …………… 応募者の中から選考会を経て決定、結果については本人あてに通知します。なお、全国で選考会が開かれる予定です。詳しくはHP (<http://peacefulworld10000.com/>) をご参照ください。

古賀こが ちかげ

子ども 暮らし 平和

日政連・第26回参議院議員選挙候補予定者

長崎より、各学校にポスターと上記募集チラシが郵送されています。
〒850-0057 長崎市大黒町 4-16 平和活動支援センター一気付
「高校生平和大使募集係」宛に、名前・学校名・学年・住所・電話番号・メールアドレスを明記し、郵送で応募してください。
兵庫県の選考会は5月22日（土）午後神戸市教育会館で行う予定です。

兵高教は、教職員一人ひとりの働きかた、暮らしかたを支援しています。